

京都府次世代等古典芸能普及促進公演

井上定期能

普及促進特別公演 6月公演

設立101年 未来へ

京都

令和8年6月6日(土)

午後12時45分開演(12時開場)

於京都観世会館

能

野宮 浦部幸裕

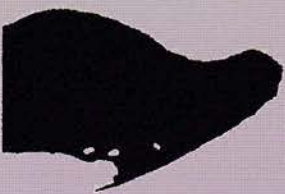
狂言

萩大名 茂山七五三

能

安達原 吉浪壽晃

白頭
長線之伝
危進之出



井上定期能設立百一年
令和八年六月六日(土) 午後十二時四十五分開演
於・京都観世会館

野宮 浦部 幸裕
里女 六条御息所
旅僧 岡 充
里人 茂山 逸平
大鼓 石井 景之 笛 貞光 智宣
小鼓 久田 陽春子

萩大名 大名 茂山 七五三
后見 松井 美樹 杉浦 豊彦
地謡 吉田 和史 橋本 充基 橋本 擴三郎
寺澤 拓海 井上 嘉介
大江 泰正 橋本 光史

休憩十五分

対談 「伝統をつなぐ」 澤木 正輝 井上 嘉介

仕舞

賀 兼 賀 茂 吉田 篤史 橋本 擴三郎
杜 兼 平 井上 嘉介
水 無 月 祓 杉浦 豊彦
鶴 之 段 井上 裕之真
地謡 橋本 充基 橋本 潔司 橋本 雅夫 寺澤 幸祐

安達原 里女 鬼女 吉浪 壽晃 能
白頭 山伏 祐慶 有松 遼一 大鼓 渡部 諭 大鼓 井上 敬介
長絲之伝 供山 伏 原 陸 小鼓 吉阪 一 笛 赤井 要佑
急進之出 間 能力 鈴木 実

后見 井上 裕之真 浦部 幸裕 地謡 吉田 和史 橋本 充基 橋本 光史
寺澤 拓海 寺澤 幸祐 大 江 泰正 吉田 篤史

附祝言 經五時半頃
会場二階にて鑑賞入門の爲の面・装束などの展示を行いますので是非ご覧ください。
主催 井上定期会

【能】野宮(ののみや)
『源氏物語』による演目。秋の末、諸国一見の僧が京都・嵯峨野を訪れ、野宮の旧跡に佇むと、一人の女が現れ、「光源氏がこの所に六条御息所を訪ねられたのは、長月七日今日の日に当るので、毎年この日に御神事を行うのです」と語り、自分がその御息所であるとうち明けて、鳥居の陰に隠れる。僧がその跡を尋うと、御息所は昔の美しい姿で車に乗って現れ出て、賀茂の祭(葵祭)の日、葵上と車争いをして辱められた身の無力を嘆き、その妄執を晴らしてほしいと頼む。そしてあたりの風情を懐かしみ、源氏が訪問してくれた昔を偲んで静かに舞を舞い、いつまでも成仏しえない身は、神の意にも添わないことだと述懐し、やがてまた車に乗って立ち去る。
御息所の源氏への想いはなおも残り、その魂は、長月七日ここ野宮に帰ってくるのである。

【能】安達原(あだちがはら)
本曲は、「道成寺」「葵上」と共に(三鬼女)と呼ばれる。紀州熊野の山伏祐慶一行が、諸国行脚の途中、奥州安達原に着き、一軒家に宿を乞う。女主人は、一度は断るが、是非にといわれ招き入れる。山伏が見馴れぬ梓林輪に興味を持つので、女は糸尽しの唄を謡いながら糸を繰る様を見せる。夜更けに、女はもてなしの焚火をするために、山へ木を取りに行くが、その際、帰るまで闇の内を見せるなど言い置く。あまりにくどく闇の内を見てはならぬと言って出かけたのを、かえって不審に思った能力が、山伏の目を盗んで闇をのぞいてしまう。そこには人の死骸が山と積んであり、一行は驚いて逃げ出す。山からの帰り道、のぞかれたことを知った女は本性を現し、鬼女となって、約束を破ったことを恨み、襲いかかる。山伏の必死の祈りに、鬼女は祈り伏せられ、恨みの声を残して消え失せる。
本曲は、人間の宿業の悲しさを描いた傑作といわれ、鬼女となるのは、約束を破られたことへの失望と怒りによるものである。人は皆、孤独の秘密を持つものであり、また人の秘密をのぞき見たいという人間の本性を巧みに描いた名曲と言える。

次回 令和八年九月五日(土) 午後十二時四十五分開演

能 半 部 於大観能楽堂
能 阿 漕 寺澤 拓海 寺澤 幸祐

《観能券》
五枚綴券 17500円
前売券 3800円
当日券 4500円
学生券 2000円
《取り扱い》
各出演者 京都観世会館

お客様へのお断り
○都合により出演者に変更がある場合がございます。
あらかじめご了承ください。
○全館自由席です。
○お客様都合による払い戻しはできません。
○上演中のお出入りはなるべく遠慮ください。
○場内での私語・飲食・撮影・録音はご遠慮ください。
○場内では携帯電話の呼び出し音をお切りください。

京都観世会館 TEL 075-771-6114 WEB kyoto-kanze.jp 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 44

